
Alice est solitaire.

風防

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Alice est solitaire .

【Nコード】

N2881Q

【作者名】

風防

【あらすじ】

ありがちな

アリス・マーガトロイドさんのおはなし。

（前書き）

警告

これより先は私の幻想郷が広がっています。

貴方の幻想郷とキャラの性格や口調が食い違う場合がございます。
閲覧の際には十二分にご注意ください。それでは。

La femme que je suis solitaire
en tout cas. Parce que person
ne n'a besoin de moi.

「どうせ私は孤独な女。誰も私を必要としないんだから。」

唯一の私の友達だった魔理沙。

孤独で穴だらけの私の心を癒してくれた魔理沙。
私に素敵な笑顔を見せてくれた魔理沙。

私の心の中には魔理沙がいつぱいだった。

それなのに――。

夜の異変が起きたときから魔理沙は私から離れていった。

魔理沙は私の目を見て話さなくなった。

でも……。

それでも私は魔理沙の事が……。魔理沙の事が……。

だから――、魔理沙の家に通い続けた。

玄関を開けても、魔理沙は本を読み続けている。

何時もなら一言掛けてくれるのに。

最近は「よう。」としか声を掛けてくれなくなった。

私は悲しくて、悲しくて。

どうして魔理沙は私に振り向いてくれなくなってしまったのか。知りたかった。知りたい。知りたい。知りたい知らないといけない。知りたい知りたい。

気づいたときには私は魔理沙を尾行していた。

人間…。いいえ、妖怪としても最低な行為だと分かってはいる。だけど…、人の形をした者としての運命^{さだめ}として。

エゴイステックなこの心は誰にも止めることはできない。

私は…魔理沙の全てを愛しているから―。

魔理沙は“私にしか”愛せないから―。

あはは、薄々感じてはいたけど…。

やっぱり博麗神社に来てたんだ…魔理沙…。

長い時間尾行した結果結局魔理沙が辿り着いたのは博麗神社…。

霊夢…貴女って人は…。

私の魔理沙を…、よくも…。

汚らしい巫女…。

死ねばいいのに。

貴女みたいな幻想郷で妖怪退治しかできない巫女なんて。

私の方が数十倍凄いのよ。

貴女より賢いお人形さんを沢山作ることができるのに。

死ねばいいのに。

死ねよ。

死ね死ね死ね。

魔理沙に触らないで。

私の魔理沙よ。

触らないで。

近寄らないでよ。

汚い。

どうして魔理沙はあんな汚い巫女と過ごせるの？

息苦しくないの？

臭いでしょ？

こんな表向きだけ綺麗な神社なんて…。

守矢の神社の方が立派だし、綺麗だし。あの人たちの心もとても綺麗だわ。

この幻想郷に貴女みたいな巫女はいらないしこの神社もいららないのに。

守矢神社に任せておきなさいよ。

そして神社ぶつ壊して私の魔理沙に触れさせないように封印してあげる。

一生動けないようにしないとねえ…。

ウデとか…アシとか…。アタマ…と力…。

全部分解してあげないと…。

死ね死ね死ね死ね死ね死ね。

死ね死ね死ね死ね死ね死ね。

博麗霊夢死ね死ね死ね死ね。

「…アリス…。」

…えっ…？魔理沙…？

「…お前って…最低なヤツだな…。」

…えっ？

「私はお前みたいな最低なヤツとは付き合えない。」

…待つて…。何…？どういうこと…？

「とぼけるんじゃないやねえよ…。お前散々霊夢の悪口言ってたよな…。」

…。

「…凶星だよな。」

…聞こえてた…の？

「…気づかなかったのか？…お前…。神社のあそこで叫んでたんだぜ？」

…う…そ…でしょ…？

「…アリス…。お前は永琳に一度診てもらえ…。お前おかしいぜ…？」

…。

「…もう一度言うが…。私は、お前とはもう会いたくない…。」

私も流石に怒りの我慢の限界だったからな。」

……………。

「私は暫くの間霊夢の所で過ごす。

私の家に勝手に入るなよ…。パチュリーに借りている本とかあるからな。」

……………待つて。

「……………じゃあな。」

…待つてよ…！…待つて…！待つて……！！魔理沙……魔理沙…
魔理沙アツ！！

魔理沙は箒にまたがり、空高く飛んでいった。

私は、何も考えられなかった。

あんなに好きだった魔理沙に嫌われた。

もう会いたくないとも言われた。

最低なヤツとも言われた。

……………。

私…。

私…。

結局…、私は孤独なのね…。

どこに行っても…。どこに行っても…。

ひとりぼっちで。

相手になるのはお人形さんだけ。

私は生きているモノとお友達になりたいの。

どうしてそれが叶わないの？

私の日ごろの行いが悪いから？

そんなはずはないわ。

わたしはまりさをあいしていた。

ずっとずっとえいえんにすごしたかった。

それなのに。

わたしはまりさにきらわれた。

ずっとずっとずっとわたしはまりさをみてきたのに。

あつははは。れいむってひどいのね。

でも…、わたしがさいていなことをしたのはじじつよね。

もう……。生きる……。なんて……。

辛いし……。怖いし……。孤独……。

嫌なの……。いやなの……。

独りぼっちって……。

……。

La femme que je suis solitaire
en tout cas. Parce que person
ne n'a besoin de moi….

「どうせ私は孤独な女。誰も私を必要としないんだから…。」

Et je le d? pensera i avec une p
oup? e d'un b e r c e a u a u c i m e t i ? r
e . J e s u i s b e a u c o u p d e l o n e l i e
r .

「そして私は揺りかごから墓場まで人形と共に過すごすんだろうな。
私はずっと孤独。」

O K , c o m m e n ? o n s u n p r o c ? s d e l a
p o u p ? e .

「さあ、人形裁判を始めましょう。」

C o m m e p o u r l e j u g e , j e , l e d ? f
e n d e u r e s t t u .

「裁判官は私、被告は貴方。」

- l e q u e l j e t . a s s a s s i n e t l e
c a s s e e t p e u t s e r a s s e m b l e r e t
a f f i c h e r l u i e t e x p o s ? .

「殺して、壊して、揃えて、並べて、晒してあげる―。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2881q/>

Alice est solitaire.

2011年1月26日10時14分発行